

ありま



令和8年4月30日
学校だより5月号
川崎市立有馬小学校

それぞれの役割

学校長 吾妻 典子

新緑が青空に生える時期となりました。有馬小の新緑たち（子どもたち）も新しい居場所でそれぞれのカラーを出しながら1か月を過ぎようとしています。

先週の土曜日に行われたありリンピックでは、たくさんの方々にご参観いただきありがとうございました。始業式から、わずか3週間の短い練習時間の中で、子どもたちがもてる力をフルに発揮し、当日の姿に表れました。保護者の皆様・地域の方々にはどのように映ったでしょうか？

校舎再生工事の関係で、4月開催のありリンピックになってからは、前年度の年明けから、まずは教職員のありリンピックへの動きが始まります。しかし、年度末にむけたまとめの時期と重なり、今の自分の姿と進級した自分の姿、二つの姿を子どもたちにイメージ化させるのは、中々難しい時期でもあります。しかし、担任たちはありリンピックへの士気が高められるように、今の自分の役割感を子どもたちにもたせ導いていきました。

子どもたちも徐々に、自分の置かれている役割を理解し始めます。

2月に入り、表現・ダンス等では3年生が2年生に、5年生が4年生に、自分たちが伝授されたダンスを教えています。1年前は自分が教えてもらう側であったのに、今度は教える側に役割が変化していくのです。2年生、4年生は踊りをマスターしようと真剣に聞き入ります。「共に踊り、格好いい姿を皆に見てもらう」そんな役割意識が互いに共鳴する瞬間です。そして、教えられた側が今度は「来年は自分たちが・・・」と先の姿を思い浮かべ、未来へとつながるプラスのスパイラルが成立。こうしてありリンピックは開催にむけて走り出したのです。

こんな流れを知って子どもたちの姿を見てみると、ありリンピックは、単に、体育学習的要素だけでない、様々なドラマが隠されていることがわかります。わずか3週間の時間の中に、どの学年もたくさんの物語が生まれたことでしょう。知れば知るほど、それらを乗り越え、やり切った子どもたちは頼もしく、この先の子どもの成長が楽しみになってきます。

明日から5月。

また新たなドラマが繰り広げられます。学校ホームページにも日々の子どもの様子がアップロードされています。一步一步成長を重ねていく子どもたちをともに見守っていただけたら幸いです。前日準備・後片付け等とご協力いただいたPTA役員・ボランティアで参加していただいた皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。



○教育相談窓口：相談窓口担当は、支援教育コーディネーターです。

○学校巡回カウンセラーの今月の来校日は、5月11日、5月27日です。

*相談ご希望の方は、電話でお申し込みください。(担当：支援教育 CO 有馬小学校 866-1447)